

11月21日に今年も「福岡市子ども読書フォーラム」が開催されました。今月は毎年フォーラムでお配りしている冊子「図書館員が選んだ100冊の絵本」から1冊ご紹介致します。

『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ／ぶん・え まさきりこ／やく 福音館書店 1980年
1050円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★★☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

『ぼくは、かみの ぼうしを かぶり、あたらしい らっぱを もって、もりへ さんぽに 出かけました』

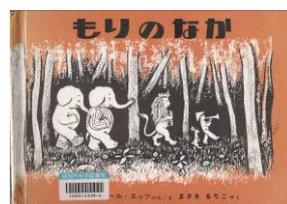
すると、ひるねをしていたらいおんや、みずあびをしていた二ひきのぞう、ジャムをなめていた二ひきのくま、あかちゃんをつれたカンガルーなど、たくさんの動物がぼくのさんぽについてきました。そして、みんなでピクニックをしたり、はんかちおとしをしてあそびました。それから、かくれんぼでおにになったぼくが「もういいかい！」と目をあけると、動物たちのすがたはなく、ぼくをさがしていたおとうさんがいたのでした。

<子どもに手渡すときのポイント>

とても静かな絵本です。絵も白黒で地味なので、子どもがパッと飛びつくような絵本ではありません。けれども、その静かな世界が子どもの心に届くとき、忘れられない絵本となるようです。

先日、6年生の子どもたちにこの絵本を読んであげる機会がありました。ぜひこの静かな世界を味わってほしいと、私自身、絵本の世界に浸る気持ちで読みました。そのときは70名ほどの生徒が聞いてくれていたのですが、ページをめくると絵本の世界が教室に広がってゆき、最後に本を閉じたとき、全員が目が絵本に釘付けになっている姿に感動しました。ストーリー自体は単純ですし、少し幼いかなと心配していた部分もあったのですが、6年生だからこそその受け止め方があったのかもかもしれません。この絵本の力を再認識した経験でした。

とても有名な絵本なので、既にご存知の方も多いと思いますが、まだの方はぜひ一度手にとって見てみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。

ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか